

2019年度「研究者の横顔」レポート

氏名 : 上別府 圭子
(かみべっぴきよこ)

1. 研究者になろうとしたきっかけ

小学1年生のときに、大好きな祖母が白血病で亡くなり、そんな病気がなかったらいいのと思ったのがきっかけです。まず、患者さんにじかに接する仕事を10年して、そのあと研究者になろうと心に決めていました。

2. 助成研究の内容紹介

妊娠・出産・子育てと、がんの発症とは、どちらも本人にとっても家族にとっても大きな出来事ですが、本研究ではその2つが合わさった「妊娠期がん」のテーマに取り組みます。妊娠期にがんを発症する患者さんは日本では年間に約1,000人とされています。2018年に「妊娠期がん診療ガイドブック」が出版されたものの、医療者の間でも知識が広まりつつある段階で、一般市民の認識は低い現状です。この研究ではまず、本人（サバイバー）とパートナー、親ごさんなどにインタビューをさせていただき、家族全体の経験を明らかにすることを目的としました。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

妊娠期がんは、従来、治療開始か妊娠継続かの2択で対応されてきました。両立の可能性も含めた選択肢を提示することが日本でも広がり始めたものの、医療者側も馴れていない現状があります。患者や各家族員の葛藤が大きく、患者家族内で意見の相違が生じることも稀ではない状況での、本人を含めた当事者家族の経験を明らかにすることから、妊娠期がんの当事者家族へどのような意思決定支援ができるのかを導き出すことを目指しています。

4. 全国のRFL関係者に一言メッセージ

妊娠期はまさに命を継承する時期です。リレーフォーライフに貢献できるように、ていねいな研究をしたいと思います。